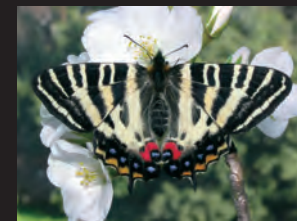
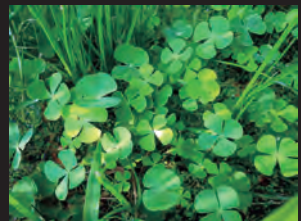


大阪の生物多様性ホットスポット
- 多様な生き物たちに出会える場所 -



本冊子は、「生物多様性保全基金」により作成しました

はじめに

大阪府は、面積が全国都道府県で2番目に小さいながら、北摂山地、金剛生駒山地、和泉葛城山脈の山々に囲まれ、平野部には淀川、大和川をはじめとする大小の河川が流れて大阪湾にそそぐなど、さまざまなタイプの生態系に恵まれています。点在する縄文・弥生期の遺跡、仁徳陵をはじめとする古墳群などが示すように、府域には古くから人が住みつき、農耕を営むほか、豊かな自然から海の幸、山の幸の恵みを受けてきました。多様な野生生物が関わり合いながら形成されている生態系は、生物多様性を支えるとともに、人々に有形無形の恩恵をもたらし、大阪の自然と文化をかたちづくってきました。

しかし、市街地が拡大するなど、人間の活動が活発になるにつれて、府域の自然環境も大きく変化しました。郊外の里地里山でも、里山林の荒廃や土地の改変などによって、野生生物が衰退を始めています。また、多くの河川やため池などには、オオクチバスやウシガエル、アメリカザリガニなどの外来種が侵入し、在来の生物と置き換わっています。

2014年春に公表された「大阪府レッドリスト2014」によると、府域ではすでに131種が絶滅し、1354種が絶滅の危機に瀕しているとされるなど、野生生物の顕著な衰退が明らかになりました。このリストには危機的な生態系も掲載され、ブナ林、アカマツ林、ナラ類の里山林、貧栄養湿地、カヤ場、棚田、ため池群、河川敷の砂礫地、ヨシ原、ワンド、干潟・河川汽水域、砂浜、岩礁性海岸など、多くの野生生物の生息環境の現状について、生態系ごとにまとめています。

本書は、このように府域の自然環境が劣化する中で、絶滅危惧種を含む多様な野生生物が温存されている地域（生物多様性ホットスポット）を紹介する目的で編集したものです。自然観察会や環境教育、遠足などに利用することを想定しています。本書が多くの野生生物に出会うきっかけとなり、絶滅危惧種やその生息場所の保全について考える参考となれば幸いです。

目次

生物多様性ホットスポットとは	1
この本の使い方	2
ホットスポット位置図	3
ホットスポットリスト	4

北摂山系

1. 能勢町天王・上山辺	5
2. 箕面公園	7
コラム：「シカ」と「ナラ枯れ」と生物多様性	10
3. 竜王山周辺（車作、忍頂寺、下音羽、清阪、長谷、銭原）・安威川上流部	13

淀川流域

4. 穂谷・尊延寺	15
5. 淀川鶴殿	17
6. 淀川ワンド群（城北・庭窪・楠葉など）	19
7. 淀川汽水域	22
コラム：イタセンパラ	25
8. 南港野鳥園・夢洲	27

金剛・生駒山系～和泉葛城山系

9. 金剛山	30
10. 天見、岩湧山、滝畑、槇尾山	33
11. 鉢ヶ峯寺、豊田、別所、金剛寺	35
12. 和泉葛城山（牛滝、塔原、蕎原、秬谷、馬場、犬鳴）	38
コラム：堺自然ふれあいの森の生物多様性に関する取り組み	41
コラム：ブナ林（トラスト）	43
13. 信太山丘陵	45
コラム：信太山の地質と湧水湿地	47

泉南地域の海岸

14. 男里川河口	49
コラム：男里川のタケノコカワニナ	52
15. 泉南地域の砂浜	53
16. 長松・小島海岸	56

大阪府の生物多様性ホットスポット



高標高の山地(和泉葛城山)



照葉樹林(犬鳴山)



河川源流部(犬鳴川)



河川源流部(牛滝川)



ため池(泉佐野市)



草原(信太山)

「生物多様性ホットスポット」は、一般に、生物多様性が高く絶滅危惧種(レッドリスト掲載種)が多い地域を指し、保全の優先度を定める指標になるものです。日本国内では、地域固有種の多い島嶼、高山、奥山などと並んで、平地から丘陵地の農地や二次林周辺のいわゆる里地里山地域では、絶滅危惧種が多く、生物多様性ホットスポットとして重要と考えられています。

大阪府では、平成12年(2000年)にまとめられた「大阪府野生生物目録」で8,700種以上の動植物が記録されています。さらに同じ年に、豊かな自然環境の保全や野生動植物保護の資料とするため、「大阪府における保護上重要な野生生物」(大阪府レッドデータブック)が作成され、平成26年(2014年)に「大阪府レッドリスト2014」として改訂しました。

レッドリストの改訂は各分野の専門家によって行われ、「哺乳類」17種、「鳥類」82種、「爬虫類」7種、「両生類」12種、「汽水・淡水魚類」49種、「昆虫類」405種、「クモ類」20種、「陸産貝類」28種、「淡水産貝類」31種、「海岸生物(無脊椎動物及び藻類)」179種、「その他淡水産無脊椎動物」4種、「維管束植物」448種、「コケ植物」143種、「菌類」60種の計1,485種が選定されました。さらに、複数の分類群で絶滅危惧種が生息す



早春の雑木林(河内長野市)



里山林(豊能町)



河川上流部(能勢町)



農業用ため池(能勢町)

る大阪府内の地域を抽出し、「日本固有種を含め、希少な野生動植物が生息・生育し、種の多様性が高い地域」として「大阪府生物多様性ホットスポット」が選定されました。レッドリスト掲載種を含む分類群が多い場所から順にAランク16か所、Bランク11か所、Cランク28か所、計55か所です(次ページ参照)。本書ではその中から、Aランクの16か所について解説し、それらの地域に関連する特筆すべき生物、保全上の問題点、取り組みなどをコラムとして紹介しました。



人工の砂浜(泉南市)



湧水湿地(能勢町地黄)



河川下流部(岬町)



河口付近(淀川)

本書の使い方

本書では前述のように大阪府生物多様性ホットスポットからAランク16か所について、それぞれの位置と観察できる生物について解説しています。冒頭の表に、大阪府レッドリスト2014掲載種を含む分類群と周辺で見られる生態系について示しました。解説文中の大阪府レッドリスト2014のカテゴリーについては、「絶滅危惧I類」は「府・I類」、準絶滅危惧は「府・準」のように示しました。環境省の2012年版(魚類は2013年版)レッドリスト掲載種については、「国・II類」、「国・準」のように示しました。周辺にある学習施設や宿泊・休憩のできる施設も掲載しています。地図は国土地理院のウェブページ(地理院地図、電子国土Web:<http://maps.gsi.go.jp/>)から引用しました。

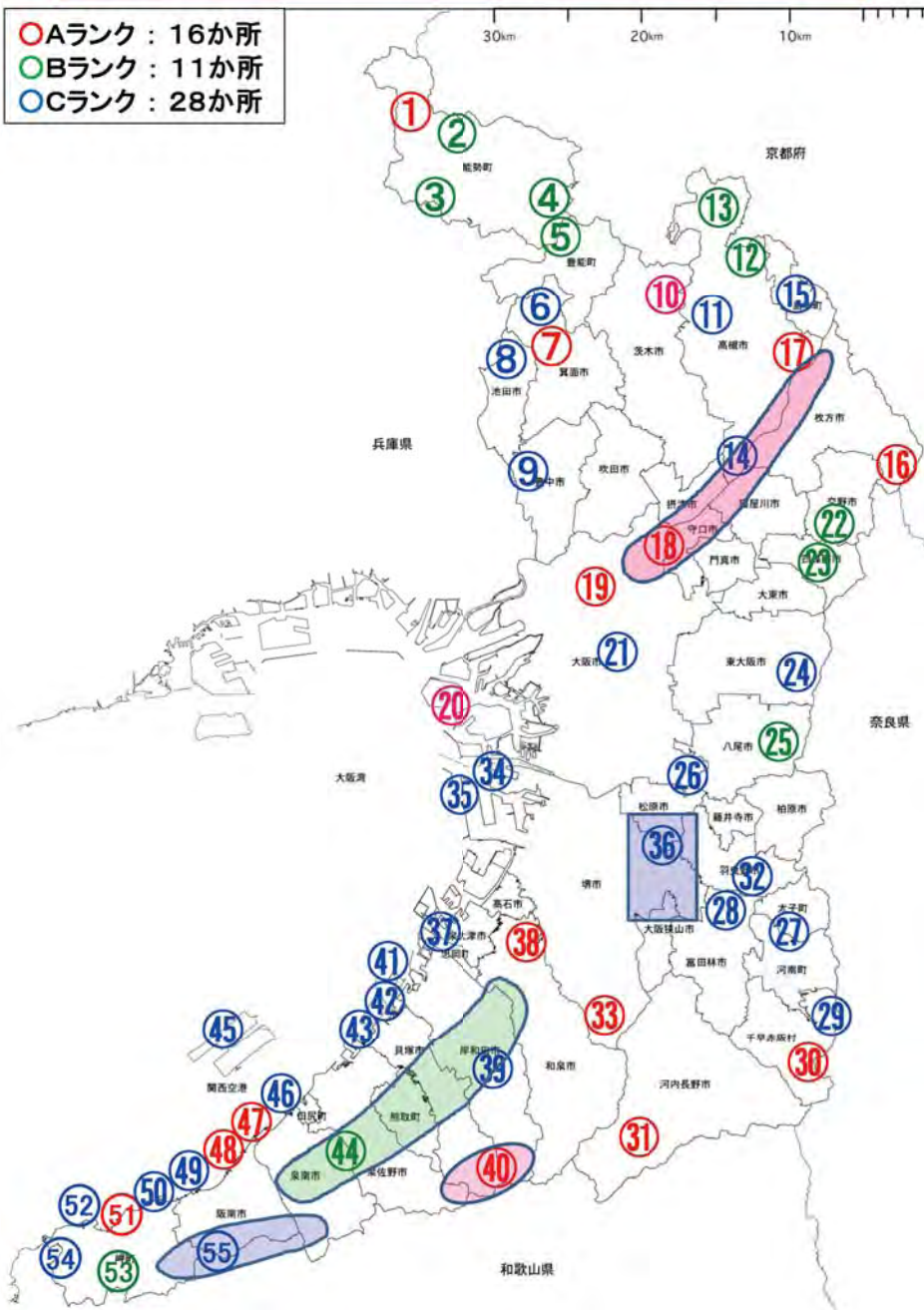
参考:大阪府レッドデータリストURL

<http://www.pref.osaka.lg.jp/midori/tayouseipartner/redlist.html>

(1-2ページの写真は平井規央撮影)

大阪府内の生物多様性ホットスポット

- Aランク：16か所
- Bランク：11か所
- Cランク：28か所



7. 生物多様性ホットスポット

(1) 概要

日本固有種を含め、希少な野生動植物が生息・生育し、種の多様性が高い地域を生物多様性ホットスポットとして選定した。

Aランク16か所、Bランク11か所、Cランク28か所、あわせて55か所を選定した。

(2) 選定箇所 (次表は、左欄から「地図上の番号」「地域名」「市町村」である。)

Aランク	
1	能勢町天王・上山辺 能勢町
7	箕面公園 箕面市
10	竜王山周辺(車作、忍頂寺、下音羽、清阪、長谷、銭原)・安威川上流部 茨木市
16	穂谷・尊延寺 枚方市
17	淀川鶴殿 高槻市
18	淀川ワンド群(城北・庭窪・楠葉など) 大阪市・守口市・寝屋川市・枚方市・高槻市
19	淀川汽水域 大阪市
20	南港野鳥園・夢洲 大阪市
30	金剛山 千早赤阪村
31	天見、岩湧山、滝池、横尾山 河内長野市・和泉市
33	鉢ヶ峯寺、豊田、別所、金剛寺 堺市・河内長野市
38	信太山丘陵 和泉市
40	和泉葛城山(牛滝、塔原、蕎原、稲谷、馬場、犬鳴) 岸和田市・貝塚市・泉佐野市
47	男里川河口 泉南市・阪南市
48	泉南地域の砂浜 阪南市・岬町
51	長松・小島海岸 岬町

Cランク	
6	北摂の鉱山跡 能勢町・豊能町・池田市・箕面市
8	余野川中流部 池田市・箕面市
9	伊丹空港周辺 豊中市
11	摂津峡 高槻市
14	高槻市南部の水田群(柱本、三箇牧、西面、三島江、唐崎) 高槻市
15	若山神社・尺代 島本町
21	上町台地 大阪市
24	枚岡公園 東大阪市
26	大和川堤防 大阪市・八尾市・松原市・藤井寺市
27	太子町・河南町の棚田群 太子町・河南町
28	美具久留御魂神社 富田林市
29	大和葛城山 千早赤阪村・河南町
32	石川周辺 南河内地域
34	堺2区埋立地 堺市
35	堺7-3区埋立地 堺市
36	堺東部ため池群 堺市・松原市・羽曳野市・大阪狭山市
37	大津川河口 泉大津市・忠岡町
39	意賀美神社・神於山 岸和田市
41	阪南2区埋立地 岸和田市
42	近木川河口 貝塚市
43	二色の浜 貝塚市
45	関空二期島周辺 泉佐野市・田尻町・泉南市
46	櫻井川河口 泉南市
49	茶屋川河口 阪南市
50	せんなん里海公園 阪南市・岬町
52	東川河口 岬町
54	多奈川(谷川、西畑、東畑) 岬町
55	紀泉高原 泉南市・阪南市・岬町

Bランク	
2	剣尾山 能勢町
3	三草山 能勢町
4	地黄湿地 能勢町
5	妙見山・初谷 豊能町・能勢町
12	ボンボン山・本山寺 高槻市・島本町
13	旧櫻田(中畑・二科・田能・出灰) 高槻市
22	星田・交野 交野市
23	室池 四条畷市
25	八尾ため池群 八尾市・東大阪市
44	泉州ため池群 和泉市・岸和田市・貝塚市・熊取町・泉佐野市・泉南市
53	孝子 岬町



1 能勢町天王・上山辺

ホットスポットAランク 全体地図 ①

哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	汽水・淡水魚	昆虫類	クモ類
陸産貝類	淡水産貝類	海岸生物	その他淡水産無脊椎動物	維管束植物	コケ植物	菌類

ヨシ原	ワンド	アマモ	ブナ林	モミ・ツガ	シイ・カシ	アカマツ林	ナラ林	貧栄養湿地	堤体草地
水田群	干潟	砂浜	棚田	ため池群	河川源流部	河川砂礫地	岩礫性海岸	洞穴	代替裸地



深山の落葉樹林

大阪府能勢町北部に位置するこれらの地域は、京都府南丹市、兵庫県篠山市との境に近く、丹波山地に連続する北摂山地の最北部にあたる。大阪府能勢町天王と京都府南丹市の境に位置する深山(790.6m)は北摂山地の最高峰であり、能勢町山辺の剣尾山(784m)がそれに続く。周辺は針葉樹の植林地と、コナラを主とする落葉広葉樹林が混在する。山麓部では、アカガシやアラカシなどの常緑広葉樹も生えている。

これらの地域は大阪府最北部の高標高地帯で、大阪府の他の地域では見られない昆虫も生息している。深山は能勢町三草山と並ぶミドリシジミの仲間の生息地で、**アイノミドリシジミ**と**エゾミドリシジミ**(ともに府・II類)が生息している。この2種は剣尾山でも

周辺の施設など
・「能勢温泉」では宿泊できる他、入浴のみでの利用も可能です。

☎ 072-734-0041
URL:
<http://noseonsen.jp/index.html>



エゾミドリシジミ



アイノミドリシジミ

記録されている。この2種は冷涼な気候の地域に生息する種で、大阪府内でこの2種が安定して生息しているのは、これらの地域だけである。他には、**ウラキンシジミ**や**ダイセンシジミ**(ともに府・II類)、**ミドリシジミ**(府・準)なども生息している。10年前前までは深山はササで覆われており、それを餌とする**ヒメキマダラヒカゲ**(府・準)などのジャノメチョウ類や**ヒメキマダラセセリ**(府・準)などのセセリチョウ類が多かった。しかし、野生草食獣によって下層植生が激しく摂食されるようになり(P10~12コラム参照)、現在では非常に少なくなってしまった。ガ類では**オナガミズアオ**や**カバフキシタバ**(ともに府・準)も記録されている。**エゾトンボ**(府・II類)や**モートンイトトンボ**(府・I類)も見られる。

水田には**トノサマガエル**(府・準)、**アカハライモリ**(府・準)などが多く、河川には**オオサンショウウオ**(府・II類)や**シマドジョウ**(府・準)も生息する。支流では**ナガレホトケドジョウ**(府・I類)が見られる場所もある。

(竹内 剛)



オオサンショウウオ(原 仁志 撮影)



能勢天王(平井規央 撮影)



アクセス:公共交通機関はない。車は国道173号線以北へ。

地図は地理院地図、電子国土Web(<http://maps.gsi.go.jp/>)を元に大阪府立大学で作成

・「一里松キャンプ場」では、ほんごうなどをレンタルできる他、ロッジに泊まることもできます。

☎ 072-734-0249
URL:
<http://www.ichirimatsu.com/index.htm>

・「林間学校行者山岩家寮」は一里松キャンプ場に隣接しており、小学校の林間学校など多人数で訪れるときは利用できます。

☎ 072-734-1077
URL:
<http://www.ichirimatsu.com/rinkan1.htm>



2 箕面公園

ホットスポットAランク 全体地図 ⑦

哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	汽水・淡水魚	昆虫類	クモ類
陸産貝類	淡水産貝類	海岸生物	その他淡水産無脊椎動物	維管束植物	コケ植物	菌類

ヨシ原	ワンド	アマモ	ブナ林	モミ・ツガ	シイ・カシ	アカマツ林	ナラ林	貧栄養湿地	堤体草地
水田群	干潟	砂浜	棚田	ため池群	河川源流部	河川砂礫地	岩礫性海岸	洞穴	代替裸地



箕面川ダム
(梅原 徹撮影)

箕面川は、上流に箕面川ダムが建設されたが、洪水制御が専門のダムで、下流への影響は比較的少ない。トビケラ、カゲロウを中心に、多くの川虫が棲んでいる。

1967年の北摂豪雨を契機に1983年に完成した箕面川ダムは、先進的な環境保全・植生保全策が成果をあげ、ダム湖周辺には豊かな植生が回復した。

箕面は、東京の高尾山や京都の貴船とならんで、日本三大昆虫産地とされた。いずれも、大都市近郊の有名な昆虫産地である。今でも、大阪市内から簡単にアクセスでき、多くの観光客が訪問する観光地としては、昆虫も含めて多くの生物が簡単に見られる地域である。古くから秋の紅葉と滝で有名な景勝地でもある。また、かつては餌付けされていたニホンザルが天然記念物となっている。現在は、人からの直接の接触を避け、個体数も管理されているが、獣害問題は残っている。



箕面川の景観と川虫観察会

中・古生層の丹波帯と超丹波帯が箕面地域の基盤となり、この地層は北摂山地から丹波高原へとつながっている。この付近で見られる中・古生層の岩石は、公園入口から瀧安寺まではチャート、瀧安寺から箕面滝までは粘板岩、滝から勝尾寺までは、砂岩が主に分布し、その地層に石英斑岩や流紋岩などの火成岩が貫入している。箕面の滝を形成している岩石は海底火山の噴出物による凝灰岩、滝の上流側は砂岩で、いずれも粘板岩に比べて侵食に強い。これが落差の大きな箕面の滝を形成している。箕面川の作る深い渓谷は、谷底から尾根筋まで広がり生物の多様性を高めている。

中・古生層の丹波帯と超丹波帯が箕面地域の基盤となり、この地層は北摂山地から丹波高原へとつながっている。この付近で見られる中・古生層の岩石は、公園入口から瀧安寺まではチャート、瀧安寺から箕面滝までは粘板岩、滝から勝尾寺までは、砂岩が主に分布し、その地層に石英斑岩や流紋岩などの火成岩が貫入している。箕面の滝を形成している岩石は海底火山の噴出物による凝灰岩、滝の上流側は砂岩で、いずれも粘板岩に比べて侵食に強い。これが落差の大きな箕面の滝を形成している。箕面川の作る深い渓谷は、谷底から尾根筋まで広がり生物の多様性を高めている。

上流にある箕面川ダムは大阪府の管理する堤高47mのロックフィルダムで、1967年7月の北摂豪雨を契機に計画され1983年に完

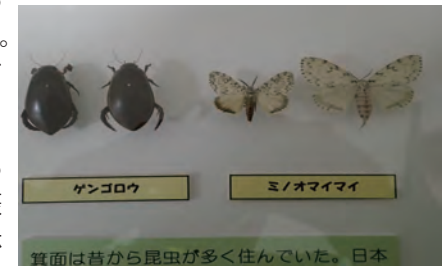
成した。国定公園内のダム計画には、多くの生態学者も積極的に関与し、先進的な自然環境の保全対策がなされた。とくに、原石山やダム湖の法面の緑化には、工事前の表土を保全しその埋土種子を使うという、当時の日本では先進的なアイデアが適用された。治水専用のダムで、箕面川の水量の減少は少ないが、洪水による攪乱は減少したと思われる。このダム影響の調査も必要だろう。

気候的には全域が照葉樹帯に含まれるが、谷底にはイロハモミジとケヤキの優占する落葉広葉樹林が発達している。斜面の上部にはアラカシとウラジロガシが優占するのが原植生である。尾根筋にはアカマツ林が見られたという。箕面川周辺の一部の地域は、瀧安寺や勝尾寺の所領として保護されながら利用されてきたため、豊かな植物相が見られていた。1970年当時の植物相の記録によれば、シダ植物以外の維管束植物は920種あまりで、樹木が24%、草本が76%だったという。シダ植物はとくに豊富で126種が確認されている。

寺社領でもあり国定公園に指定されているために大きな人為的な破壊は免れたが、北摂山地の他の地域と同様にニホンジカによる林床植生の破壊が進み、現在は植生は貧弱になっている。

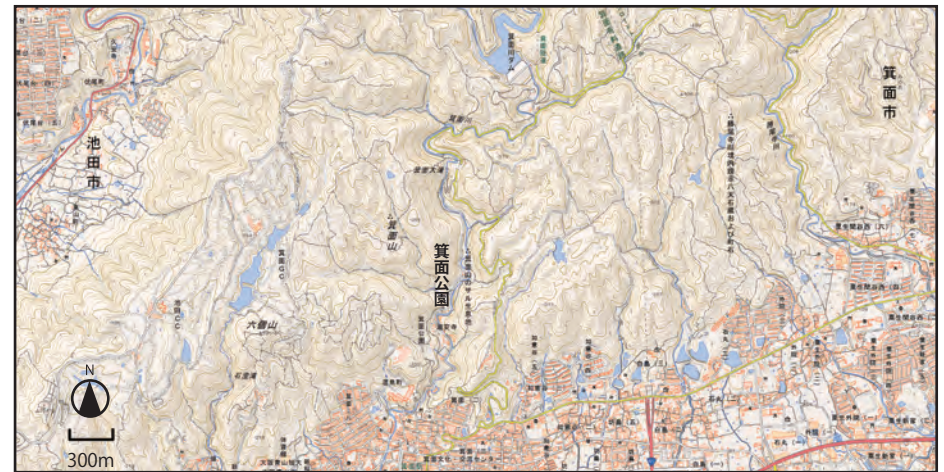


箕面の植物相は豊かで、とくにシダ植物が多かった。その中でナチシダは府内唯一の産地である。
(梅原 徹撮影)



箕面は昔から昆虫が多く住んでいた。日本

箕面の名前のついた昆虫(右)
(箕面昆虫館展示標本より)



アクセス：阪急箕面線箕面駅下車。車は国道171号線から北へ。

地図は地理院地図、電子国土Web(<http://maps.gsi.go.jp/>)を元に大阪府立大学で作成

周辺の施設など
大阪府箕面市箕面
昆虫館
〒562-0002
大阪府箕面市箕面
公園 1-18
☎ 072-721-7967
http://www.pref.osa
ka.lg.jp/ikedo/insec
t/

溪流性の鳥としては**カワガラス(府・準)**が営巣し、かつては**キセキレイ**や**セグロセキレイ**が見られたが、今は**ハクセイキレイ**が多い。**アオサギ**、**マガモ**も川で採餌している。

昆虫相はよく調査され、4000種程度が記録され、その中には箕面をタイプ産地とする種も30種あまりがあるという。しかし、戦前は現在の昆虫館付近でも多かった**ギフチョウ(府・I類)**はこの公園域からは絶滅した。

水生動物としては**オオサンショウウオ(府・II類)**が多く生息し、ときには昼間でも目撃することがあるが、夜間観察ではほぼ確実に見られるようだ。水生昆虫の種数も多く、府内では石川上流、安威川上流とならぶ、豊かな溪流である。トンボ類では、**オオカワトンボ**、**ヒメクロサナエ**、**ダビドサナエ**、**ミルンヤンマ**などが、**カゲロウ**類では**クロタニガワカゲロウ**が多い。**カワゲラ**類では**ウエノカワゲラ**、**オオヤマカワゲラ**が多く、**トビケラ**類では**ウルマーシマトビケラ**、**オオヤマシマトビケラ**、**ニッポンナガレトビケラ**、**カワムラナガレトビケラ**が見られる。全体に山地性の種が多いが、**クロスジヘビトンボ**、**モンカゲロウ**など、やや平地性の種も見られるなど、多様性に富む。**プラナリア**類では、**ナミウズムシ**が本流に多く、**ミヤマウズムシ(府・I類)**は岩盤を流れる細流に見られる。山地にある池沼でも、**トビケラ**など水生昆虫類が多く見られる。

川と山地、自然環境と観光、大都市近郊にはまれな自然環境で、さらに保全と環境と生物資源のモニタリングを続けることが、次世代への責任と思われる。

箕面の紅葉は全国的にも有名で、この頃は海外からの観光客も多い。滝、紅葉、猿の3点セットの観光地である。
(梅原 徹 撮影)



参考文献

大阪科学研究会編 1966.
大阪の自然. 六月社, 大阪.
梅原 徹 2010.
ダム湖周辺植生の保全・回復とモニタリング. 谷田一三・村上哲生(編), ダム湖・ダム河川の生態系と管理—日本における特性・動態・評価. pp.131-158.名古屋大学出版会.
(谷田 一三)

コラム 「シカ」と「ナラ枯れ」と生物多様性

2000年代に日本各地でシカによる生態系への影響が顕著になり、シカ問題は地球環境問題ともいわれた(湯本・松田, 2007)。今やシカの影響は森林にとどまらず湿地や高山植生にも及び、日本の植生の約50%でその影響が確認されている(吉川ほか, 2013)。保全管理策としてシカ柵設置やシカの駆除が行政や民間で実施されているものの、生態系レベルでの保全には限界があり、過剰な個体数に増大したシカによる生物多様性の劣化は著しい(前迫・高槻, 2013)。

一方、ナラ枯れはすでに1930年代に宮崎と鹿児島などで記録されている(伊藤・山田, 1998)。拡散後いったん終息したが、1980年代以降、山形、新潟など日本海側から南下し、大阪では2009年に高槻市梶原地区で確認された(小林ほか, 未発表)。現在、豊能から南河内まで拡散している(図1)。



図1. 2009年から2014年の間に大阪府下に発生したナラ枯れ被害の推移(小林ほか, 未発表)

ナラ枯れ後の推移をみると、シカの生息域(高槻市)と非生息域(四條畷市)では明らかに林床の実生動態に違いがある(図2)。生息域ではギャップが生じたにもかかわらず、植生の増大が見られない。しかし非生息域ではコナラの実生が多数発生するなど、森林更新や多様性の回復がみられる。



図2. シカ生息域(左: 高槻市のコナラ林. 林床植生は乏しい. 2015年11月30日)とシカ非生息域の林床(右: むろいけ園地のコナラ林. ナラ枯れ後の林床に実生が多数発生. 2015年11月25日)

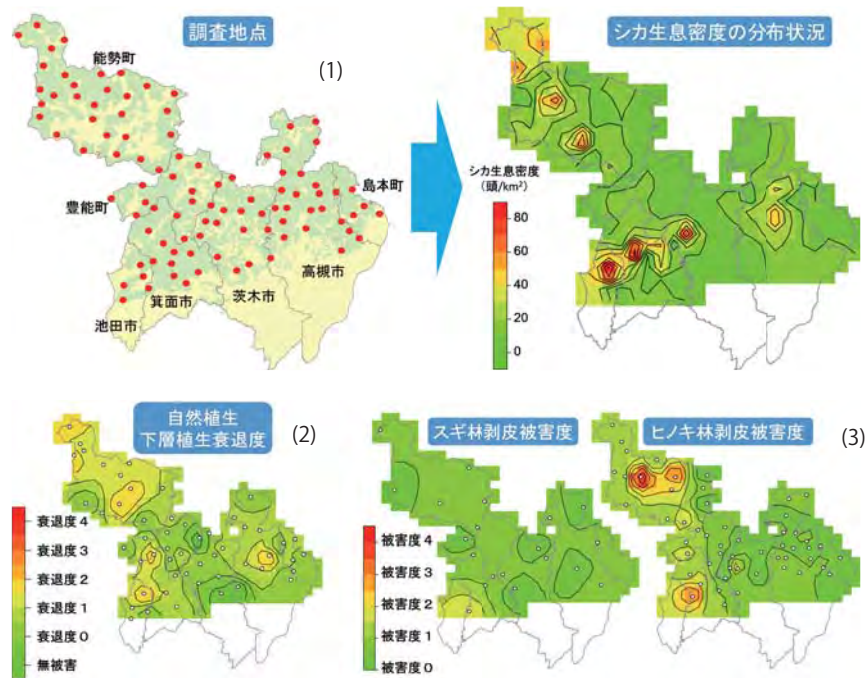


図3. 大阪府のシカ密度(1)と自然植生の下層植生衰退度(2)、スギ・ヒノキ人工林の樹皮剥ぎ被害度(3) (幸田, 2015)

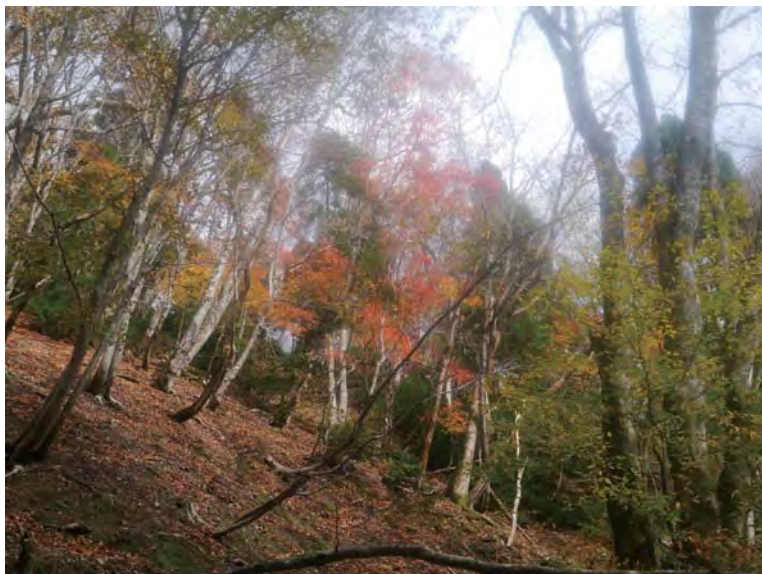


図4. 能勢町深山のコナラ林。ナラ枯れはしていないが、採食影響により林床は乏しい(2015年11月30日)。

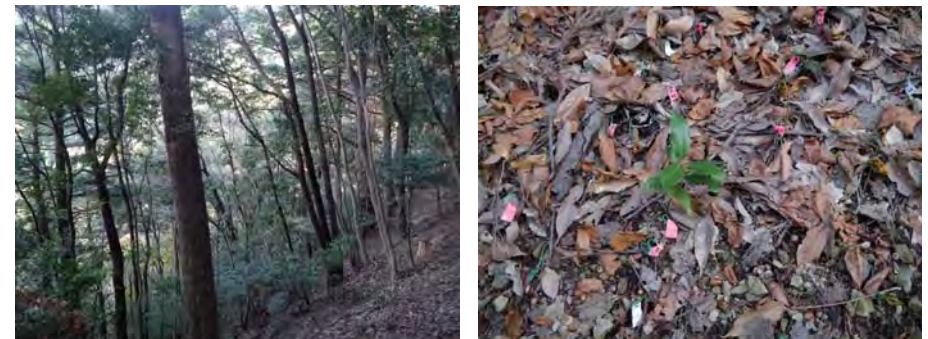


図5. 本山寺のモミ・アカガシ林(左)。モニタリング調査が行われ、シカ柵内ではアカガシやモミなどの実生が確認されている(右)(2015年11月30日)。

ナラ枯れとシカの影響が同所的に生じると植生が乏しくなるだけでなく、表土流亡の危険性も指摘されている(大洞ほか, 2013)。大阪では北摂でシカの生息密度が高く、たとえば能勢町天王ではシカ密度が約50頭/km²に達しているが(幸田, 2015)、シカ密度に応じて下層植生は乏しくなり(図3、図4)、人工林の樹皮剥ぎも著しい。

里山のみならず、大阪府のホットスポットでもある本山寺(高槻市)のモミ・アカガシ混交林においてもシカとカシノナガキクイムシ両者の影響は深刻である。数年前から地域の協議会を立ち上げ、シカ柵を設置して自然林回復の試みが始まっている(図5)。人の暮らしに生物多様性は大きな意味をもつが、生物多様性の劣化はすなわち生態系サービスの喪失を意味する。自然と人の距離が遠くなってしまった今、未来に向けて自然と人がうまくつきあう「人-自然共生系」が強く求められている。

引用文献

- 伊藤進一郎・山田利博 (1998) ナラ類集団枯損被害の分布と拡大, 日本林学会誌, 80: 229-232.
 幸田良介 (2015) 大阪府におけるシカの現状. 都市と自然 474: 4-7.
 前迫ゆり・高槻成紀 (2015) シカの脅威と森の未来-シカ柵による植生保全の有効性と限界-.
 文一総合出版. 247pp.
 大洞 智宏・渡邊 仁志・横井 秀一 (2013) 特集「シカの採食圧による植生被害防除と回復ナラ枯れ被害跡地での更新に与えるシカ食害の影響」. 日緑工誌, 39(2): 260-263.
 吉川 正人・田中 徳久・大野 啓一 (2013) ニホンジカによる日本の植生への影響: シカ影響アンケート調査 (2009-2010) 結果. 植生情報 15: 9-96.
 湯本貴和・松田裕之 (2006) 世界遺産をシカが喰う シカと森の生態学. 文一総合出版. 212pp.

(前迫 ゆり)



3 竜王山周辺

(車作、忍頂寺、下音羽、清阪、長谷、銭原)

安威川上流部

ホットスポットAランク 全体地図 ⑩

哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	汽水・淡水魚	昆虫類	クモ類
陸産貝類	淡水産貝類	海岸生物	その他淡水産無脊椎動物	維管束植物	コケ植物	菌類

ヨシ原	ワンド	アマモ	ブナ林	モミ・ツガ	シイ・カシ	アカマツ林	ナラ林	貧栄養湿地	堤体草地
水田群	干潟	砂浜	棚田	ため池群	河川源流部	河川砂礫地	岩礫性海岸	洞穴	代替裸地



竜王山山麓、千提寺の田園景観

茨木市北部の丘陵から山地にまたがる地域で、最高峰は竜王山(510m)である。丹波層群と呼ばれる中・古生層を茨木市北部から能勢にかけて花崗岩体が貫いて分布するので、竜王山の南西麓にあたる忍頂寺、銭原、泉原は花崗岩、山頂から東北、安威川上流の車作、清阪は古生層地帯にあたる。

全域が照葉樹林帯、シイ林域からカシ林域にあたるが、規模の大きな自然林はなく、社寺に小規模

なシイ・カシにわずかにモミをまじえる林が残るにすぎず、ほぼ全域が二次林化している。ただ、異なる地質背景を反映して、花崗岩地帯の丘陵にはアカマツ林、コナラ林などが優勢で、山麓には農耕地が連続し、灌がい用のため池が多いのに対し、古生層地帯の山地は急峻で、スギの植林が多い。また、安威川の上流部には奇石や滝などがつらなる竜仙峡と呼ばれる深い渓谷がある。東海自然歩道も整備され、夏は釣りやハイキング、キャンプでにぎわう。

安威川上流にはオオサンショウウオ(特別天然記念物)のほか、分布西限にあたるアジメドジョウ(府・Ⅰ類)が息息する。植物では渓谷の岩場にユキヤナギ(府・Ⅱ類)が分布するほか、棚田の放棄水田にはサンショウモ(府・Ⅰ類)、畦畔斜面の草地にはキキョウ(府・Ⅱ類)が見られる。現在、府下でこの2種が現存するのは、この地域



安威川上流の渓谷(山崎俊哉 撮影)



放棄水田に生えるサンショウモ

竜王山周辺(車作、忍頂寺、下音羽、清阪、長谷、銭原)安威川上流部

だけである。

花崗岩地帯の山麓にあるため池と周辺の湿地には水生、湿地性の植物が多く、代表的なものに、イヌタヌキモ(府・準)、イトモ(府・Ⅰ類)、サガミトリゲモ(国・Ⅱ類)、イトトリゲモ(府・準)、ミズオオバコ(府・準)、コガマ(府・準)、ナガエミクリ(府・Ⅱ類)がある。

この地域には生物多様性保全上の課題が多い。まず、安威川上流には以前から大規模な採石場があり、今では川底の礫表が白い石粉で覆われている。結果、付着藻類が貧弱で、底生動物も少なく、オオサンショウウオの幼生もほとんど見られない。

近年は安威川ダムの建設も進められており、将来的には大きな堪水域が出現することになる。また、山麓部には東西方向に新名神高速道路が建設中である。いずれの事業も並行して自然環境の保全対策はすすめられているものの、水生植物相が豊かなため池



安威川沿いの棚田畦畔に生えるキキョウ(山崎俊哉 撮影)

の多くがこの路線沿いであって、すでに失われた。こうした大規模土木事業に関連して周辺農地の耕作放棄も進んでおり、草刈りによって維持されてきたキキョウなど、草原性の植物も先行きが危ぶまれる。

(梅原 徹)



新名神高速道路建設で変貌しつつある竜王山山麓、千提寺

周辺の施設など「茨木市青少年野外活動センター」この地域の北部にあり、キャンプエリア(事前申込が必要)と自由に利用できるピクニックエリアがあり、様々な活動に利用できる。茨木市 教育委員会 教育総務部 青少年課・上中条 青少年センター ☎ 072-622-5180



アクセス: 阪急バス銭原経由余野行きで周辺へ。車は安威川沿いの府道46号線を北へ。

地図は地理院地図、電子国土Web(<http://maps.gsi.go.jp/>)を元に大阪府立大学で作成



4 穂谷・尊延寺

ホットスポットAランク 全体地図 ①6

哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	汽水・淡水魚	昆虫類	クモ類
陸産貝類	淡水産貝類	海岸生物	その他淡水産無脊椎動物	維管束植物	コケ植物	菌類

ヨシ原	ワンド	アマモ	ブナ林	モミ・ツガ	シイ・カシ	アカマツ林	ナラ林	貧栄養湿地	堤体草地
水田群	干潟	砂浜	棚田	ため池群	河川源流部	河川砂礫地	岩礫性海岸	洞穴	代替裸地



穂谷の風景(土井雄一 撮影)

枚方市東部の穂谷や尊延寺は、生駒山地の北に連なり、京阪奈丘陵の一面を占める。隣接する京都府京田辺市や奈良県生駒市高山とともに、比較的良好な里山環境が残されている。未風化な花崗岩地域はかつて草山として使われ、アカマツ林として維持された場所からは多くのマツタケ(府・Ⅱ類)が産出していた。花崗岩地域にはアベマキも多いが高級な薪として売るために積極的にクヌギへの植え替えが

進んできた地域でもある。

穂谷、尊延寺の棚田は花崗岩地谷頭の貧栄養な湧水や雨水をため池にため、灌漑されている。ミズニラ(府・Ⅰ類)やイトモ(府・Ⅰ類)が生育し、水路にはミズオオバコ(府・準)などが見られ、トノサマガエル(府・準)などの両生類も多い。春先には、ニホンアカガエル(府・Ⅱ類)が産卵する。ため池にはイシガメ(府・準)も見られる。

棚田周辺の草地には、スズサイコ(府・Ⅱ類)やミズギボウシ(府・Ⅱ類)、サワシロギク(府・Ⅰ類)、イヌセンブリ(府・Ⅱ類)、キキョウ(府・Ⅱ類)などの植物が見られ、カヤネズミ(府・準)も生息している。

穂谷・尊延寺を含む北河内地域には、大阪府では激減が心配されているキツネ(府・Ⅰ類)が比較的高密度で、人里近くに生息していることも特筆される。また、フクロウ(府・準)も広く生息している。

魚類では、ミナメダカ(府・Ⅱ類)、ドジョウ(府・Ⅱ類)が水田周辺やため池などで見られるほか、穂谷川にはタモロコ(府・準)やゼゼラ(府・Ⅱ類)も生息する。

周辺の施設など
・枚方市野外活動センターには宿泊施設キャンプ場やロッジがある
野遊び、里山保全講座、バードウォッチングなど自然観察行事も行われている
☎ 072-858-0300
URL:
<http://hirakata-taikyo.org/ha/>



スズサイコ (平井規央 撮影)

里山に生息する昆虫類も多様で、特にトンボ類の種数が多い。アキアカネ(府・準)をはじめとするアカネ類のほか、ナニワトンボ(府・Ⅱ類)、キイトンボ(府・準)などが見られる。また、府内では生息地が少なくなったシバカワツリアブ(府・準)も見られる。

早くから地元で里山環境を守る活動が行われ、現在も地元の自然保護意識が高い地域であり、地域・保全団体・行政の連携が進む。そのためもあって、日本で3ヶ所しかない環境省の「モニタリングサイト1000」の里地里山のコアサイトに選ばれている。

穂谷・尊延寺地区は枚方市の最東部に当たる。隣接する京田辺市との間には清掃工場などの工場地域が広がり、また周辺には関西文化学術研究都市水室・津田地区、さらには第二京阪道路やそれに接続する国道307号線バイパスなどの整備により、分断化や開発が進んでいる。同時に、大阪府としては高槻市成合とともに最初期からナラ枯れの侵入がみられており、周辺のコナラ・クヌギの動向が懸念されている。

観察は営農の障害にならないよう十分な配慮が必要である。また、盗掘なども発生しており、観察歩道なども十分な整備がされていないことから、観察などは地域の事情に精通した保全団体などが主催する観察会などに参加して行うのが望ましい。

(佐久間大輔・和田 岳)



キイトンボ (山本捺由他 撮影)



シバカワツリアブ (松本吏樹郎 撮影)



フクロウ (植山雅仁 撮影)



アクセス:京阪バス枚方尊延寺線穂谷行で周辺へ。

地図は地理院地図、電子国土Web(<http://maps.gsi.go.jp/>)を元に大阪府立大学で作成



5 淀川 鶺鴒

ホットスポットAランク 全体地図 ⑰

哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	汽水・淡水魚	昆虫類	クモ類
陸産貝類	淡水産貝類	海岸生物	その他淡水産無脊椎動物	維管束植物	コケ植物	菌類

ヨシ原	ワンド	アマモ	ブナ林	モミ・ツガ	シイ・カシ	アカマツ林	ナラ林	貧栄養湿地	堤体草地
水田群	干潟	砂浜	棚田	ため池群	河川源流部	河川砂礫地	岩礫性海岸	洞穴	代替裸地



鶺鴒の景観 5月 (横川昌史 撮影)

鶺鴒は、淀川右岸、高槻市域にあたる。府境にあたる大阪府三島郡島本町・京都府八幡市で宇治川・木津川・桂川が合流した淀川の下流部に当たり、各河川の増水による影響を受けやすい位置に当たる。天ヶ瀬ダムをはじめとする治水や1970年代の河床切り下げ工事の影響を受け、近年は冠水してこなかった。

かつて、鶺鴒のヨシ原は、巨椋池や、十三など淀川沿いのヨシ原とともに葦簀(寒天や茶園用を含む)や、さまざまな資材と

してヨシの利用、維持が行われてきた。その中でも雅楽器の「箏篋(ひちりき)」のリードに相当する「蘆舌」の最上級の材料となるヨシの産地として宮内庁に献上されてきた歴史を持つことで特に知られている。また、百人一首や「土佐日記」などにも記述がある。

高品質なヨシを維持すること、不慮の火事の防止を目的に、ヨシ原は毎年2月頃に野焼きされ、裸地に近い景色となる。この明るい地表が春に創出されることで、トネハナヤスリ、サワトラノオ、アゼオトギリ(府・Ⅱ類)やノウルシ、タヌキマメ、ヒメナミキ(以上府・Ⅱ類)、タコノアシ、サデクサ(府・準)など本来洪水などの攪乱によってはじめて維持される水辺の草地環境の植物が維持され、集中して分布している。哺乳類では、キツネ(府・Ⅰ類)、ハタネズミ(府・Ⅰ類)、カヤネズミ(府・準)が生息している。鳥類では、イカルチドリ(府・Ⅱ類)は繁殖しているほか、冬期には豊富なネズミ類などを狙って、チュウヒ(府・Ⅰ類)、ノスリ(府・準)、コミミズク(府・Ⅱ類)などが渡来する。ま

周辺の施設など
対岸の淀川資料館では、淀川の歴史や環境に関する展示や企画展を随時開催している
☎ 072-846-7131
URL:
<http://www.yodo-museum.go.jp/>



イカルチドリ (植山雅仁 撮影)

た、大阪府北部の主要なツバメのねぐらである。

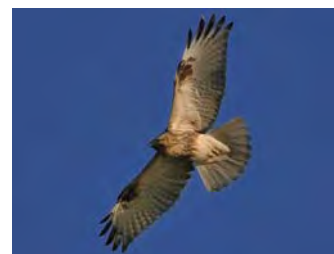
大阪府レッドリスト2014にはホットスポット以外に絶滅危惧生態系が挙げられている。この最上位Aランクには「低湿地(規模の大きいヨシ原など)」が挙げられその代表的存在がこの鶺鴒のヨシ原である。淀川中・下流域全体を考えると、巨椋池の失われた今、鶺鴒は京都府向島などと並んで流域全体の多様性を維持するためのコアエリアの一つといえる。

1970年代の治水工事以降、鶺鴒は洪水による冠水頻度が減り、乾燥化が進んだ。またヨシ焼きも一時中断したため、カナムグラやクズ、セイタカアワダチソウの繁茂により一時はヨシ原が極端に減少した。さらにアレチウリなども侵入している。現在は保全対策やヨシ焼きによりヨシ原は維持され、導水なども試みられている。今後新名神高速道路などの工事も予定されており、影響については慎重にモニタリングしていく必要があるだろう。

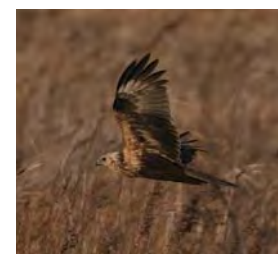
(佐久間 大輔)

自然観察に利用できる拠点は少ない
鶺鴒ヨシ原研究所・鶺鴒クラブ(小山弘道所長)が活発な活動をしている
<http://www.udono-yoshihara.com>

アクセス
高槻駅(JR、阪急)から高槻市営バス12番系統:道鶴町行き乗車、終点「道鶴町」から徒歩約10分
または阪急上牧駅から南へ徒歩約30分夏場以降、ヨシ原の中を歩くのは迷いやすいのでおすすめしない
上記団体などの観察会に参加するのがよいだろう



ノスリ (植山雅仁 撮影)



チュウヒ (植山雅仁 撮影)



ノウルシ (横川昌史 撮影)



アクセス:高槻市営バス「道鶴町」など。車は国道171号線から東へ。

地図は地理院地図、電子国土Web(<http://maps.gsi.go.jp/>)を元に大阪府立大学で作成